



みなさんはこの夏休みをどのように過ごしましたか。部活動にいっしょうけんめい汗を流した人もいます。塾に通ってバッチリ実力をつけた人もいます。おうちの人のお手伝いをして、ふだんは経験できないようなすばらしい体験をした人もいます。いずれにしても今年の夏休みは終わりました。楽しかった夏休みに区切りをつけて、いよいよ2学期の学習が始まります。2学期は体育大会や文化祭などの行事がたくさんありますが、これらの行事を充実したものにしていくためには、どのような気持ちで取り組んでいけばよいのでしょうか。



「いっしょうけんめい取り組む」ということはとても大切なことです。好きなこと、きれいなことはだれにもあります。好きなことはいっしょうけんめいやりますが、きれいなことは気がすすまないし、できればやりたくないと思うものです。しかし、ここが大切です。みなさんがこれから長く生きていくなかで、いやなこと、やりたくないことは山のようにたくさんあります。避けて通れるものならば避けたいのですが、世の中それほどあまくはありません。いやでも、きれいでやらなければならないことがたくさんあります。そういう事態におちいったときにどうするか、ここでほんとうの人間の価値がみえてくるのです。

「知らん顔をする」「とぼける」「ワタシには関係ないと主張する」「何でオレがやらなあかんのか」と相手を攻撃する・・・いままでさまざまな生徒のさまざまな方法をたくさん見てきましたが、どれもみんな自分から逃げているのです。逃げているのはほんとうの解決にはなりません。問題を先送りにしただけなのです。みなさんのような若い時期に、このことに対してしっかりとした考えをもってほしいのです。そして「何でも挑戦する」という前向きの気持ちをもってほしいと思うのです。失敗したって若いから許されます。失敗がこわくて逃げていけばいつまでたっても前には進みません。



編集長にも同じような経験があります。期待に胸をふくらませつつ、経験のない仕事、任された責任の大きさに「自分にできるだろうか」「失敗したらどうしよう」という不安の方が大きいときがありました。「今しかできないことだからこそチャンレンジには意味があり、不安は新しい冒険に必要なちょっとしたスパイスだ。」あれこれと思い悩んでいたころ、先輩がこんな応援のメッセージを贈ってくれました。このことばに背中を押されました。好奇心で胸を躍らせていたころを思い出し、不安の鼓動を新しいことに挑戦するワクワクに変えていこうと思ったのです。

目の前の困難に対して、それをのりきる方法をしっかりと身につけてください。みなさんのような若い時期にこれを身につけておくと、その後の生き方やものの見方がかわってきます。ぜひ、みなさんもチャレンジャーの気持ちで2学期の学習や行事に取り組んでほしいと思います。さあ、いよいよ2学期のスタートです。